



mgcp persistent through mmoip aaa send-id secondary

- [mgcp persistent](#) (3 ページ)
- [Mgcp ピギーバック メッセージ](#) (5 ページ)
- [mgcp playout](#) (7 ページ)
- [mgcp profile](#) (9 ページ)
- [mgcp quality-threshold](#) (11 ページ)
- [mgcp quarantine mode](#) (13 ページ)
- [mgcp quarantine persistent-event disable](#) (15 ページ)
- [mgcp request retries](#) (17 ページ)
- [Mgcp 要求のタイムアウト](#) (18 ページ)
- [mgcp restart-delay](#) (20 ページ)
- [Mgcp rtp ペイロード タイプ](#) (21 ページ)
- [mgcp rtp unreachable timeout](#) (24 ページ)
- [mgcp rtrcac](#) (26 ページ)
- [mgcp sched-time](#) (27 ページ)
- [mgcp sdp](#) (28 ページ)
- [mgcp sgcp disconnect notify](#) (30 ページ)
- [Mgcp sgcp 再起動通知](#) (32 ページ)
- [mgcp src-cac](#) (33 ページ)
- [mgcp timer](#) (34 ページ)
- [mgcp tse payload](#) (37 ページ)
- [mgcp vad](#) (39 ページ)
- [mgcp validate call-agent source-ipaddr](#) (40 ページ)
- [mgcp validate domain-name](#) (42 ページ)
- [mgcp voice-quality-stats](#) (46 ページ)
- [microcode reload controller](#) (48 ページ)
- [midcall-signaling](#) (50 ページ)
- [min-se \(SIP\)](#) (53 ページ)
- [mmoip aaa global-password](#) (55 ページ)

- mmoip aaa method fax accounting (56 ページ)
- mmoip aaa method fax authentication (58 ページ)
- mmoip aaa receive-accounting enable (60 ページ)
- Mmoip AAA 受信認証の有効化 (62 ページ)
- mmoip aaa receive-id primary (64 ページ)
- mmoip aaa receive-id secondary (66 ページ)
- mmoip aaa send-accounting enable (68 ページ)
- Mmoip AAA 送信認証を有効にする (70 ページ)
- mmoip aaa send-id primary (72 ページ)
- mmoip aaa send-id secondary (74 ページ)

mgcp persistent

Media Gateway Control Protocol (MGCP) ゲートウェイから Call Agent への永続的イベントの送信を設定するには、グローバルで **mgcppersistent** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcp永続的 {hookflash | offhook | onhook}

いいえ**mgcp**永続的 {hookflash | offhook | onhook}

構文の説明

フックフラッシュ	永続的なフックフラッシュイベントをコールエージェントに送信します。
オフフック	持続的なオフフック イベントをコールエージェントに送信します。
オンフック	持続的なオンフックイベントをコールエージェントに送信します。

コマンド デフォルト

持続性が有効の場合、**hookflash** キーワードは無効です。**offhook** キーワードの永続性が有効になっています。持続性が有効の場合、**onhook** キーワードは無効です。

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン

永続的なイベントは、一度検出されると、Call エージェントがその発生の通知を明示的に要求しているかどうかに関わらず、報告可能と定義されます。つまり、ゲートウェイが検出と報告を求められる RequestedEvents のリストに含まれていないイベントであっても、これらは報告されます。このようなイベントには、ファックス トーン、連続性 トーン、オンフック トランジションなどがあります。各イベントには、ゲートウェイが実行するアクションが関連付けられています。

デフォルトの動作をオーバーライドする必要がある永続イベントの各タイプにこのコマンドを使用します。

例

次の例では、永続的なオンフック イベントをコール エージェントに送信するようにゲートウェイを設定します。

```
Router(config)# mgcp persistent onhook
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。

Mgcp ピギーバック メッセージ

ピギーバック メッセージを有効にするには、グローバル設定モードで **mgcppiggyback** メッセージコマンドを使用します。ピギーバック メッセージを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcppiggyback メッセージ

いいえ mgcppiggyback メッセージ

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

ピギーバック メッセージが有効になっています

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン

ネットワーク ゲートウェイがピギーバック メッセージを処理できない場合、このコマンドの **no** 形式を使用してピギーバック メッセージを無効にし、Media Gateway Control Protocol (MGCP) 1.0、Network-Based CallSignaling (NCS)、およびトランキング ゲートウェイ コントロール プロトコル (TGCP) を有効にします。ピギーバック メッセージングは Simple Gateway Control Protocol (SGCP) および MGCP 0.1 では利用できません。

ピギーバック メッセージという用語は、ゲートウェイまたはコール エージェントが同じ User Datagram Protocol (UDP) パケットで複数の MGCP メッセージを送信する状況を指します。受信者は個別にメッセージを受信した順番に処理します。しかし、メッセージを再送する必要がある場合は、データグラム全体が再送されます。受信者は、メッセージを整理し、どのメッセージが処理または承認されたかを追跡する必要があります。

ピギーバックは、メッセージの再送中に、以前に確認応答されなかったメッセージをコール エージェントに送信するために使用されます。これにより、コール エージェントが受信するイベントの順序が維持され、RestartInProgress (RSIP) メッセージが常に最初にコール エージェントによって受信されるようになります。

例

次の例では、ピギーバック メッセージを無効にします。

```
Router(config)# no mgcp piggyback message
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。

mgcp playback

MGCP 制御接続に対して試行されるジッターバッファ パケットサイズを調整するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **mgcpplayout** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcpplayout {アダプティブinit-millisecondsmin-milliseconds最大ミリ秒 | ファクスミリ秒 | fixed
ミリ秒[タイムスタンプなし]}

いいえmgcpplayout {adaptive | fax | fixed}

構文の説明

adaptive init-millisecondsmin-millisecondsmax-milliseconds	ジッターバッファ パケットサイズの範囲をミリ秒 (ms) で設定します。各値の範囲は4から250です。init- ミリ秒は最小-ミリ秒および最大値-ミリ秒の間でなければなりません。デフォルト: 60 4 200。
ファクスミリ秒	FAX プレイアウトバッファサイズの値を設定します。範囲:1~70。デフォルト: 300。 (注) 範囲とデフォルト値はプラットフォームによって異なる場合があります。この値を設定する前に、プラットフォームのDSP(デジタルシグナルプロセッサ)の仕様を確認してください。
固定ミリ秒	ジッターバッファ パケットサイズの固定サイズをミリ秒単位で設定します。範囲:4から1000。既定値はありません。
no-timestamps	(オプション) タイムスタンプなしで、一定の遅延でジッターバッファを固定します。

コマンド デフォルト

MGCP ジッター再生遅延バッファが無効になっています。

コマンド モード

グローバル設定 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(1)T	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(3)T	このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3660、Cisco uBR924
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5850 に導入されました。
12.2(13)T	このコマンドは変更されました。 fax キーワードが追加されました。
15.1(1.8)T	このコマンドは変更されました。 no-timestamps キーワードが追加され、固定範囲の値が 250 から 1000 に増加しました。

例

次に、ジッターバッファの初期再生を 100 ms、最小バッファ サイズ 50 ms、最大バッファ サイズ 150 ms に設定する例を示します。

```
Router(config)# mgcp playout adaptive 100 50 150
```

次の例では、ファックス プレイアウト バッファ サイズを 200 ms に設定します。

```
Router(config)# mgcp playout fax 200
```

次の例では、ジッター バッファを 120 ms の固定再生に設定します。

```
Router(config)# mgcp playout fixed 120
```

次の例では、ジッター バッファをタイムスタンプなしの 65 ms 遅延の固定再生に設定します。

```
Router(config)# mgcp playout fixed 65 no-timestamps
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp	MGCP デーモンを開始します。
再生遅延	DSP のプレイアウト バッファを調整して、WAN のスイッチによって引き起こされるパケットジッターに対応します。
再生遅延モード	DSP のジッターバッファからの再生遅延に対して、固定モードまたは適応モードを選択します。

mgcp profile

メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル (MGCP) プロファイルを作成して 1 つまたは複数の MGCP エンドポイントに関連付ける、またはデフォルトの MGCP プロファイルを構成するには、**mgcp** プロファイルコマンドを使用します グローバル設定モードで。プロファイルを削除するには、このコマンドの **no**形式を使用します。

mgcp プロファイル {プロファイル名 | デフォルト}

いいえ **mgcp** プロファイル {プロファイル名 | デフォルト}

構文の説明	プロファイル名	設定するユーザ定義プロファイルの識別名です。名前の長さは最大で 32 文字です。
	デフォルト	既定のプロファイルを構成する必要があります。

コマンド デフォルト このコマンドが使用されない場合、MGCP プロファイルは作成されません。

コマンド モード
グローバル設定 (config)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)XA	このコマンドが導入されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。
	12.4(24)T3	設定可能な MGCP プロファイルの最大数が 13 (12 プラス 1 デフォルト) から 29 (28 プラス 1 デフォルト) に増加しました。

使用上のガイドライン MGCP プロファイルは、メディア ゲートウェイ上のエンドポイントのサブセットです。1 つのゲートウェイで複数の MGCP プロファイルを同時に設定できます。Cisco IOS Release 12.2(24)T3 より前のリリースでは、MGCP プロファイルの最大数は 13 でした (12 プラス デフォルト 1)。Cisco IOS Release 12.2(24)T3 以降、MGCP プロファイルの最大数は 29 です (28 + デフォルト 1)。**voice-port** コマンドを MGCP プロファイル設定モードで使用すると、エンドポイントをプロファイルに関連付けます。

MGCP パラメータには、グローバルとプロファイル関連の 2 種類があります。MGCP プロファイルコンフィギュレーションモードで設定されるパラメータは、プロファイル関連のパラメータです。ただし、エンドポイントは MGCP プロファイルに属している必要はありません。エンドポイントがどの MGCP プロファイルにも関連付けられていない場合、プロファイル関連の MGCP パラメータの値は、デフォルトのプロファイルによって提供されます。デフォルトプロファイルのすべてのパラメータにはデフォルト値がありますが、プロファイル名の代わりに **default** キーワードを使用するだけで、MGCP プロファイルが設定されるのと同じ方法で設

定することもできます。デフォルトプロファイルとユーザ定義プロファイルの主な違いは、デフォルトプロファイルには音声ポートまたはコールエージェントの関連付けがないことですが、ユーザ定義のプロファイルでは必須です。デフォルトのプロファイルを設定する際、**call-agent** コマンドや **voice-port** コマンドを使用しないでください。

このコマンドは、メディアゲートウェイ上のエンドポイントまたは一連のエンドポイントの MGCP プロファイルを作成する MGCP プロファイル コンフィギュレーションモードを開始します。そして、そのプロファイルまたはデフォルトプロファイルのパラメータを設定します。

例

次の例は、**newyork** という名前の MGCP プロファイルの定義を示しています。

```
Router(config)# mgcp profile newyork

Router(config-mgcp-profile)# call-agent 10.14.2.200 4000 service-type mgcp version 1.0
Router(config-mgcp-profile)# voice-port 0:1
Router(config-mgcp-profile)# package persistent mt-package
Router(config-mgcp-profile)# timeout tsmax 100
Router(config-mgcp-profile)# timeout tdinit 30
Router(config-mgcp-profile)# timeout tcrit 600
Router(config-mgcp-profile)# timeout tpar 600
Router(config-mgcp-profile)# timeout thist 60
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone mwi 600
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone ringback 600
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone ringback connection 600
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone network congestion 600
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone busy 600
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone dial 600
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone dial stutter 600
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone ringing 600
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone ringing distinctive 600
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone reorder 600
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone cot1 600
Router(config-mgcp-profile)# timeout tone cot2 600
Router(config-mgcp-profile)# max1 retries 10
Router(config-mgcp-profile)# no max2 lookup
Router(config-mgcp-profile)# max2 retries 10
Router(config-mgcp-profile)# exit
```

関連コマンド

コマンド	説明
コール エージェント	MGCP プロファイルのコール エージェントを定義します。
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
voice-port	音声ポート設定モードを開始します。

mgcp quality-threshold

ジッター バッファ サイズしきい値、遅延しきい値、パケット損失しきい値のパラメータを設定するには、**mgcpquality-threshold** コマンドをグローバル設定モードに入力します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcp品質しきい値 {hwm-セル損失値 | hwm-jitter-buffer値 | hwm-latency値 | hwm-packet-loss値 | lwm-cell-loss値 | lwm-jitter-buffer値 | lwm-latency値 | lwm-packet-loss値}

いいえmgcp品質しきい値 {hwm-セル損失値 | hwm-jitter-buffer値 | hwm-latency値 |

hwm-packet-loss値 | lwm-cell-loss値 | lwm-jitter-buffer値 | lwm-latency値 | lwm-packet-loss値}

構文の説明

hwm-cell-lossvalue	最高水準点セル損失カウント (ATM パッケージが有効な場合)。値の範囲は 5000 ～ 25000 です。デフォルトは 10000 です。
hwm-jitter-buffervalue	最高水準点ジッター バッファ サイズ (ミリ秒単位)。値の範囲は 100 ～ 200 です。デフォルトは 150 です。
hwm-latencyvalue	ハイウォーターマーク レイテンシ値 (ミリ秒単位)。値の範囲は 250 ～ 400 です。デフォルトは 300 です。
hwm-packet-lossvalue	ハイウォーターマーク パケット損失値 (ミリ秒単位)。範囲は 5000 から 25,000 です。デフォルトは 10000 です。
lwm-cell-lossvalue	低水準セル損失カウント、ATM パッケージが有効な場合。値の範囲は 1 ～ 3000 です。デフォルトは 1000 です。
lwm-ジッター-バッファ値	低水位標ジッター バッファ サイズ (ミリ秒単位)。値の範囲は 4 ～ 60 です。デフォルトは 30 です。
lwm-遅延値	最低水準点レイテンシ値 (ミリ秒単位)。値の範囲は 125 ～ 200 です。デフォルトは 150 です。
lwm-packet-lossvalue	低水準パケット損失値 (ミリ秒単位)。値の範囲は 1 ～ 3000 です。デフォルトは 1000 です。

コマンド デフォルト

最高水位標のセル損失数: 10000 セル 最高水位標のジッターバッファサイズ: 150 ms 最高水位標遅延の値: 300 ms 最高水位標のパケット損失値: 10000 ms 最低水位標のセル損失数: 1000 セル 最低水位標のジッターバッファサイズ: 30 ms 最低水位標の遅延値: 150 ms 最低水位標のパケット損失値: 1000 ms

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
11.3(3)T	デフォルトは 100 ミリ秒に変更されました。

リリース	変更
12.1(1)T	このコマンドが Cisco AS5300 に実装されました。
12.1(3)T	このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3660、Cisco uBR924
12.1(5)XM	このコマンドが Cisco MC3810 に実装されました。 The hwm-cell-loss and lwm-cell-loss keywords were added.
12.2(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン 以下は、音声コールの品質に影響を与えます。

- **Cell損失**(送信中に失われた ATM セルの数)
- **ジッタバッファ**(ネットワークから受信し、デコードと再生を待機しているアクティブな通話音声パケットを含むストレージ領域)
- **遅延**(パケット送受信のネットワーク遅延)
- **Packetloss**(特定の通話で100,000 パケットあたりの損失したパケット数)

良好な音声品質を得るためには、システムのパフォーマンスがローウォーターマーク値以下である必要があります。値が高くなるにつれて、音声品質が劣化します。値が最高水準点レベルを超えると、システムはレポートを生成します。最高水準点と最低水準点の値を十分に設定して、低いパフォーマンスについてのレポートを受け取るようにします。ただし、フィードバックが多すぎるほど近づけすぎないようにしてください。

各パラメータを個別のコマンドとして入力します。

例

次の例では、さまざまなキーワードに新しい値を設定します。

```
Router(config)# mgcp quality-threshold hwm-jitter-buffer 100
Router(config)# mgcp quality-threshold hwm-latency 250
Router(config)# mgcp quality-threshold hwm-packet-loss 5000
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp	MGCP デーモンを開始します。
mgcppackage-capability	ゲートウェイ上で様々なパッケージをアクティベートします。
mgcpplayout	ジッタ バッファのパケット サイズを調整します。

mgcp quarantine mode

Media Gateway Control Protocol (MGCP) 隔離イベントのモードを設定するには、**mgcpquarantinemode** コマンドをグローバル設定モードで使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcpquarantine モード [**discard** | **process**][**ループ** | **ステップ**]
 いいえ **mgcpquarantine** モード

構文の説明

discard	隔離イベントの処理の代わりに破棄することを有効にするコマンドです。監視イベントは、コールエージェントがイベントを受信する準備ができている場合でも、コールエージェントにレポートされません。
ループ	隔離されたイベントに対して、ステップバイステップの代わりにループモードを有効にします。Call エージェントから要求を受信した後、ゲートウェイは後続の要求を待たずに、観察されたイベントを複数回 Call エージェントに報告します。
プロセス	隔離イベントの破棄の代わりに処理することを有効にするコマンドです。監視イベントは、コールエージェントがイベントを受信する準備ができたときに、コールエージェントにレポートされます。
ステップ	隔離されたイベントに対して、ルーピングの代わりにステップモードを有効にします。ゲートウェイは Call エージェントから要求を受信すると、監視されたイベントを、各要求に対して 1 つずつ、Call エージェントにレポートします。

コマンド デフォルト

イベントが指定されていない場合、デフォルトは **step** です。

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(5)XM	このコマンドが導入されました。
12.2(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合され、Cisco 7200 に実装されました。
12.2(2)XA	このコマンドは、MGCP をサポートするように変更されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン

隔離イベントは、MGCP NotificationRequest コマンドの到着前にゲートウェイによって検出されたが、まだコールエージェントに通知されていないイベントとして定義されます。それらは、ゲートウェイがこの要求に応じて 1 つの通知 (ステップバイステップ) または複数の通知

(ループ) のいずれかを生成することが期待される MGCP NotificationRequest コマンドを受信するまで、**themgcpquarantinemode** コマンドの設定に基づいて、隔離バッファに保持されます。

このコマンドは、MGCP アプリケーションの下で動作する SGCP 実装との下位互換性をサポートします。SGCP には、コールエージェントが検疫モードをコントロールするための方法がありません。MGCP にはこの機能があります。

ゲートウェイが通知状態にあるとき、桁間タイマー (Tcrit) は開始されません。

ゲートウェイが失敗した NotificationRequest を受信すると、現在の RequestEventList と SignalEventList は空になります。また、ObservedEventList と隔離バッファも空になります。

隔離モードへの変更は、ゲートウェイがリブートされるか、または MGCP アプリケーションが再起動された場合にのみ有効になります。

例

次の例では、MGCP アプリケーションを開始します。

```
Router(config)# mgcp
```

次の例では、MGCP アプリケーションを停止します。

```
Router(config)# no mgcp
```

次の例では、隔離イベントの処理をオンにし、監視イベントをコールエージェントに送信します。

```
Router(config)# mgcp quarantine mode process
```

次の例では、隔離イベントの処理をオフにします:

```
Router(config)# no mgcp quarantine mode discard
```

次の例では、監視イベントをループモードのコールエージェントに送信します。

```
Router(config)# mgcp quarantine mode process loop
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
mgcpquarantinepersistent-eventdisable	隔離バッファ中の持続的な呼び出しイベントの処理を無効にする。

mgcp quarantine persistent-event disable

Media Gateway Control Protocol (MGCP) 隔離バッファ中の持続的な通話イベントの処理を無効にするには、グローバル設定モードで **mgcpquarantinepersistent-eventsdisable** コマンドを使用します。既定の状態にリセットするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcpquarantine持続イベント無効にする
いいえmgcpquarantinepersistent-event無効にする

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

永続的なイベントはイベントバッファに保持されます。

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(5)XM	このコマンドが導入されました。
12.2(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合され、Cisco 7200 に実装されました。
12.2(2)XA	このコマンドは、MGCP をサポートするように変更されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、イベントを隔離保持するのではなく、永続的なイベントの報告を即座にコールエージェントに可能にします。永続的なイベントは、コールエージェントが明示的にイベントの発生を通知を要求しているかどうかにかかわらず、レポート可能として定義されたイベントです。隔離とは、ゲートウェイがイベントを監視することを意味しますが、コールエージェントが通知を受け取る準備ができたことを示すまで、コールエージェントには報告しません。デフォルトでは、永続的なイベントを含むすべてのイベントは、ゲートウェイが通知状態であっても、検出されると隔離されます。**mgcpquarantinepersistent-eventdisable** コマンドが設定されている場合、永続的なイベントはMGCP通知コマンドにより即座にコールエージェントに報告されます。

例

次の例では、永続イベントの隔離バッファ処理を無効にします。

```
Router(config)# mgcp quarantine persistent-event disable
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
mgcpquarantinemode	MGCP イベント検疫バッファ処理モードを設定します。

mgcp request retries

このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T で追加されました。Cisco IOS Release 12.2(2)XA および Cisco IOS Release 12.2(4)T 以降、このコマンドはサポートされなくなりました。これは **max1retries** および **max2retries** コマンドに置き換えられました。

Mgcp 要求のタイムアウト

Media Gateway Control Protocol (MGCP) ゲートウェイがリクエストの再送信前に呼び出しエージェントの応答を待つ時間を指定するには、グローバル設定モードで **mgcprequesttimeout** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcprequestタイムアウト {タイムアウト値 | 最大*maxtimeout-value*}
 いいえ**mgcprequestタイムアウト**[最大]

構文の説明	<i>timeout-value</i>	要求に対する応答を待つ時間 (ミリ秒)。値の範囲は 1 ～ 10000 です。デフォルトは 500 です。
	max <i>maxtimeout-value</i>	最大タイムアウト (ミリ秒単位)。デフォルトは 4000 です。

コマンド デフォルト タイムアウト値: 500 ミリ秒、最大タイムアウト値: 4000 ミリ秒

コマンド モード
 グローバル設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.1(1)T	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
	12.1(3)T	このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3660、Cisco uBR924
	12.1(5)XM	このコマンドが Cisco MC3810 に実装されました。
	12.2(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合され、Cisco 7200 シリーズに実装されました。
	12.2(2)XA	max キーワードがこのコマンドに追加されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合され、Cisco uBR925 に実装されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン 要求タイムアウト値は、MGCP ゲートウェイがメッセージを再送信する前に、通話エージェントからの応答を待機する初期の時間を設定します。間隔は再送信ごとに 2 倍になります。リクエストタイムアウトの最大値では、タイムアウト間隔の上限を設定します。

例 次に、最初の要求に対する応答を 40 ミリ秒待つようにルーターを設定し、再送信前の以降の間隔の最大値を 10,000 ミリ秒 (10 秒) に制限する例を示します。

```
Router(config)# mgcp request timeout 40
Router(config)# mgcp request timeout max 10000
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp	MGCP プロセスを開始します。
mgcprequestretries	Mgcp コマンドの送信を再試行する回数を指定します。

mgcp restart-delay

再起動中 (RSIP) のグレースフルティアダウンで送信される遅延の値を選択するには、グローバル設定モードで**mgcp再起動-遅延**コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcprestart-delay値
いいえ**mgcp**再起動遅延

構文の説明

値秒単位の再起動遅延値です。範囲は 0 ～ 600 です。デフォルトは 0 です。

コマンド デフォルト

0 秒

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(1)T	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(3)T	このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3660、Cisco uBR924
12.1(5)XM	このコマンドが Cisco MC3810 に導入されました。
12.2(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合され、Cisco 7200 シリーズに実装されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、ゲートウェイの接続が切断されることになったことを示す RSIP メッセージを送信します。

例

次の例では、再起動の遅延を 30 秒に設定します。

```
Router(config)# mgcp restart-delay 30
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp	MGCP デーモンを開始します。
mgcpmax-waiting-delay	再起動後の MGCP の最大待機遅延時間を指定します。

Mgcp rtp ペイロード タイプ

Media Gateway Control Protocol (MGCP) ネットワークでの後方互換性のために適切な Real-time Transport Protocol (RTP) ペイロードタイプの使用を指定するには、**mgcprtppayload-type** コマンドをグローバル設定モードで使用できます。ペイロードタイプをデフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

FAX およびモデムのコーデック

mgcprtpペイロードタイプ {**cisco-codec-fax-ack** | **cisco-codec-fax-ind** | **cisco-pcm-switch-over-alaw127** | **cisco-pcm-switch-over-ulaw126**}

いいえ **mgcprtp**ペイロードタイプ {**cisco-codec-fax-ack** | **cisco-codec-fax-ind** | **cisco-pcm-switch-over-alaw127** | **cisco-pcm-switch-over-ulaw126**}

名前付きシグナリングおよびテレフォニー イベント

mgcpRTPペイロードタイプ {**nse** | **nte**}*number*

いいえ **mgcprtp**ペイロードタイプ {**nse** | **nte**}

音声コーデック

mgcprtpペイロードタイプ {**clear-channel** | **g726r16** | **g726r24**} 静的

いいえ **mgcprtppayload-type** {クリアチャネル | **g726r16** | **g726r24**}

構文の説明

cisco-codec-fax-ack	Cisco コーデック FAX 応答のペイロードタイプです。
cisco-codec-fax-ind	Cisco コーデック FAX 表示のペイロードタイプです。
cisco-pcm-switch-over-alaw127	G.711 a-law コーデックへのアップスピードのためのペイロードタイプ。
cisco-pcm-switch-over-ulaw126	G.711 mu-law コーデックへのアップスピードのためのペイロードタイプ。
nse	名前付きシグナリング イベント (NSE) のペイロードタイプ。
nte	名前付きテレフォニーイベント (NTE) のペイロードタイプです。
<i>number</i>	Payload-type の値を示します。NSE および NTE ペイロードの有効範囲は 96 から 127 です。NSE のデフォルトは 100 です。NTE のデフォルトは 99 です。
clear-channel	クリア チャネル コーデックのペイロードタイプ。
g726r16	G.726 コーデックのペイロードタイプ (ビットレート 16 kbps)
g726r24	G.726 コーデックのペイロードタイプ (ビットレートは24 kbpsです)

静的	静的ペイロード タイプ。
----	--------------

コマンド デフォルト FAX およびモデム コーデック: 静的 RTP ペイロード タイプ 音声コーデック: 動的 RTP ペイロード範囲は96から127です (NSEのデフォルトは100、NTEのデフォルトは99です)

コマンド モード グローバル構成 (config)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(11)T	このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco AS5300、Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5400HPX、および Cisco AS5850。
	12.4(6)T	nse and nte という名前付きシグナリングおよびテレフォニーイベントキーワードが追加されました。
	12.4(15)T5	cisco-codec-fax-ack および cisco-codec-fax-ind キーワードが追加されました。
	12.4(18a)	cisco-codec-fax-ack および cisco-codec-fax-ind キーワードが追加されました。
	12.4(13f)	cisco-codec-fax-ack および cisco-codec-fax-ind キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン Cisco IOS Release 12.2(11)T では、以前の Cisco IOS イメージとは異なる、MGCP VoIP コール用の RTP ペイロードタイプのネゴシエーションが導入されました。異なる Cisco IOS イメージを使用するゲートウェイ間の相互運用性を確保するには、これらのガイドラインに従ってください。

- ファックスおよびモデム コーデックの場合 -- 発信側または終端側の MGCP ゲートウェイが Cisco IOS Release 12.2(11)T 以降のリリースを実行しており、もう一方のゲートウェイが Cisco IOS Release 12.2(11)T より前のリリースを実行している場合、後のリリースでは、ゲートウェイで **mgcp rtp payload-type** コマンドを実行する必要があります。
- 音声コーデック -- クリアチャネル、G.726R16、または G.726R24 コーデックを使用しており、発信側または終端側の MGCP ゲートウェイで Cisco IOS Release 12.2(11)T 以降のリリースが実行されており、もう一方のゲートウェイが Cisco IOS Release 12.2(11)T より前のリリースを実行している場合は、**mgcprtppayload-type** コマンドを使用します。

発信ゲートウェイと着信ゲートウェイの両方が Cisco IOS Release 12.2(11)T 以降のリリースを使用している場合、このコマンドは必要ありません。

cisco-codec-fax-ack および **cisco-codec-fax-ind** キーワードは、Cisco FAX リレー機能のデフォルトの動的ペイロードタイプを別の動的ペイロードタイプに変更するために使用されます。



(注) NSE と NTE は、同じ値を使用するように構成することはできません。同じ値が入力されると、コマンドパーサーによってエラーメッセージが生成されます。

例

次の例では、他のゲートウェイがリリース12.2(11)Tより前のCisco IOSソフトウェアを実行しているMGCPネットワークで、mu-lawパルスコード変調(PCM)通話のためのファックスとモデム通話に動的RTPペイロードタイプを使用することを指定しています:

```
Router# mgcp rtp payload-type cisco-pcm-switch-over-ulaw 126
```

次の例では、他のゲートウェイが Release 12.2(11)T より前の Cisco IOS ソフトウェアのリリースを実行している MGCP ネットワークで、G.726R16 コーデックの静的 RTP ペイロードタイプを指定しています。

```
Router# mgcp rtp payload-type g726r16 static
```

次の例では、NSE イベントに RTP ペイロード 104、NTE イベントにペイロード 108 を使用するようにゲートウェイを設定します。これらのペイロードタイプは、ゲートウェイがセッション定義プロトコル(SDP)経由で機能を知覚する場合に使用されます。ゲートウェイが SDP を受信している場合、リモート SDP で設定されたペイロードタイプが代わりに使用されます。

```
Router# mgcp rtp payload-type nse 104
```

```
Router# mgcp rtp payload-type nte 108
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp コーデック	デフォルトのコーデックタイプとそのオプションのパケット化期間の値を選択します。

mgcp rtp unreachable timeout

到達不能なリモート VoIP エンドポイントの検出を有効にするには、**mgcprtpunreachabletimeout** コマンドをグローバルコンフィギュレーションモードで選択します。検出を無効にするには、このコマンドの **no**形式を使用します。

mgcprtpunreachable タイムアウト *timer-value*
 いいえ **mgcprtp** 到達できません タイムアウト

構文の説明	タイマー-値	到達不能なエンドポイントからの音声パケットをシステムが待機する時間 (ミリ秒)。範囲は 500 ~ 10000 です。
コマンド デフォルト	検出が無効になっています。	
コマンド モード	グローバル設定	
コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(2)T	このコマンドが導入されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン



(注) このコマンドにより、以前は非表示だった **mgcprtpicmptimeout** コマンドが置き換えられます。

このコマンドは、リモートエンドポイントが利用できなくなったときに、通話が開かれたままになるのを防ぐのに役立ちます。

たとえば、ある IP 電話がゲートウェイを経由して別の IP 電話に発信するとします。コールの間、コールエージェントがダウンし、リモート IP 電話が電話を切ります。通常、コールエージェントはゲートウェイにコールを切断するよう指示します。この場合、ゲートウェイはコールをアクティブとして扱い、リモート IP 電話にさらに音声パケットを送信します。リモート IP 電話は、インターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) ポート到達不能メッセージをゲートウェイに返します。**mgcprtpunreachabletimeout** コマンドが有効になっている場合、ゲートウェイは通話を切断します。コマンドが無効になっている場合、通話は開いたままになります。

timer-value 引数は、通話を切断する前に待機する時間をゲートウェイに指示します。ICMP 到達不能メッセージを受信した後、ゲートウェイはタイマーを開始します。ゲートウェイがタイマー値の期間の終わりまでに音声パケットを受信しない場合、ゲートウェイはコールを切断します。タイマー値の期間が終了する前に音声パケットが着信した場合、ゲートウェイはタイマーをリセットし、コールをアクティブ状態のままにします。

例

次の例では、Real-Time Transport Protocol (RTP) 到達不能タイマーを 1500 ms に設定します。

```
Router(config)# mgcp rtp unreachable timeout 1500
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp	MGCP デーモンを開始します。
mgcp タイマー	RTP ストリームホスト検出を設定します。

mgcp rtrcac

VoIP をサポートする MGCP ゲートウェイ上で Media Control Gateway Protocol (MGCP) Service Assurance (SA) Agent Call Admission Control (CAC) を有効にするには、**mgcprtrcac** コマンドをグローバル コンフィギュレーション モードで使します。ゲートウェイでの SA エージェントの確認を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使します。

mgcprtrcac

いいえ **mgcprtrcac**

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有せん。

コマンド デフォルト

Disabled

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XB	このコマンドが導入されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。
12.2(11)T	このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5850、および Cisco AS5850。

使用上のガイドライン

このcommandを使用して、MGCP ゲートウェイ上の MGCP SA エージェント CAC を開始または無効にします。

例

次の例では、MGCP SA エージェント CAC を有効にします。

```
Router(config)# mgcp rtrcac
```

関連コマンド

コマンド	説明
callfallbackactive	ネットワークが混雑した場合に、コール要求が代替ダイヤルピアにフォールバックできるようにします。
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。
rtrresponder	SA エージェントレスポnder機能を有効にします。

mgcp sched-time

Media Gateway Control Protocol (MGCP) のスケジュールされたタイマーの値を設定するには、グローバル設定モードで **mgcpsched-time** コマンドを使用します。設定を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcpsched-time ミリ秒

いいえ **mgcpsched-time**

構文の説明

ミリ秒	スケジュール タイマー値 (ミリ秒単位)。値の範囲は 12 ～ 40 です。
-----	--

コマンド デフォルト

MGCP のスケジュールされたタイマーの値が設定されていません。

コマンド モード

グローバル設定 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
15.0(1)M	このコマンドが Cisco IOS Release 15.0(1)M より前のリリースで導入されました。

使用上のガイドライン

mgcpsched-time コマンドは、MGCP プロセスが下位のプロセスまたは同じ優先順位のプロセスに譲る前に実行する指定時間を設定するために使用されます。スケジュールタイマーの値は、12から40 ms でなければなりません。これはそれぞれ、プロセスを実行できる最小および最大時間です。これにより、MGCP プロセスが頻繁に中断しないようにします。

例

次の例は、MGCP のスケジュールされたタイマー値を設定する方法を示します。

```
Router# configure terminal
Router(config)# mgcp sched-time 15
```

関連コマンド

コマンド	説明
showmgcp	MGCP パラメータの値を表示します。

mgcp sdp

Media Gateway Control Protocol (MGCP) でのセッション定義プロトコル (SDP) 操作のパラメータを指定するには、**mgcpsdp** コマンドを使用します。グローバル設定モードで。パラメータを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcpsdp {記法ドットなし | **simple** | **xpc-codec**}

いいえ **mgcpsdp** {記法ドットなし | **simple** | **xpc-codec**}

構文の説明	記法非点字	SDP のコーデック文字列に対して、ドットなしの SDP 表記を有効にします。
	シンプル	MGCP のシンプル モードの SDP 動作を有効にします。
	xpc-codec	X-pc-codec フィールドの初期生成を有効にします。このフィールドは、Network-Based CallSignaling (NCS) の SDP およびトランキン グ ゲートウェイ コントロール プロトコル (TGCP) でのコーデック ネゴシエーション中に使用されます。

コマンド デフォルト **notationundotted: disabledsimple:disabledxpc-codec:disabled**

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.1(3)T	このコマンドが導入されました。
	12.2(2)XA	表記法、未点線化および xpc -コーデック キーワードが追加されました。
	12.2(2)T	このコマンドが Cisco 7200 に実装されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(4)T に統合されました。
	12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン このコマンドにより、コールエージェントの要件を満たすために SDP フィールドを構成することができます。

ドットなし表記キーワードは G.726-16 および G.729 コーデック用です。コーデック文字列の G.726-16 および G.729 はドット表記です。コーデックの表記形式は、次の優先順位で動的に選択されます。

1. SDP で使用されるコール エージェントからの MGCP パケットの表記。
2. コールエージェントからの MGCP パケットのローカル接続オプションの 'a:' パラメータで 使用される表記。

3. 'mgcp sdp notation undotted' コマンドによって設定される表記。

simpleキーワードが有効になっていると、ゲートウェイは次の SDP フィールドを生成しません:**o**(オリジンとセッション識別子)、**s**(セッション名)、**t**(セッションの開始時刻と終了時刻)。特定のコールエージェントでは、ネットワーク経由でデータを送信するために、この変更された SDP が必要です。

xpc-codecキーワードは、TGCP および NCS 内で、コーデック ネゴシエーションの SDP で新しいフィールド(**X-pc-codec**)を定義します。非パケットケーブル SDP との下位互換性を保つために、X-pc-codec フィールドの最初の生成はデフォルトで抑制されます。しかし、受信した SDP にこのフィールドが含まれる場合、コーデックネゴシエーションを継続するために、X-pc-codec フィールドが読み取られ、生成されます。

例

次の例では、SDPにシンプルモードを設定します。

```
Router(config)# mgcp sdp simple
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp	MGCP デーモンを開始します。

mgcp sgcp disconnect notify

Simple Gateway Control Protocol (SGCP) バージョン 1.5 ネットワークにおいて、手順の切断後に強化されたエンドポイント同期を有効にするには、**mgcpsgcpdisconnectnotify** コマンドをグローバル設定モードで使用できます。この機能が無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcpsgcp切断notify
いいえ**mgcpsgcp切断notify**

構文の説明 このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト Disabled

コマンド モード グローバル設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、切断手順を経るエンドポイントに強化されたメッセージング機能を提供するために、SGCP バージョン 1.5 で使用されます。メディア コントロール ゲートウェイ プロトコル (MGCP) を実行しているゲートウェイまたは SGCP の他のバージョンには適用されません。

通話エージェントが一時的にオフラインになっている、またはネットワークの障害が原因で、SGCP エンドポイントが通話エージェントとの通信を失う可能性があります。エンドポイントが通話エージェントとの通信を失ったことをゲートウェイが認識すると、ゲートウェイはコンタクトの復元を試みます。切断タイマーが切れる前にコンタクトが確立されなかった場合、切断処理が開始されます。

切断の手順では、エンドポイントが再起動進行中 (RSIP) メッセージをコール エージェントに送信し、エンドポイントが切断され、現在接続を再確立しようとしていることを示します。**mgcpsgcpdisconnectnotify** コマンドがゲートウェイで設定されている場合、切断された特別な RSIP メッセージが送信されます。連絡が再確立されると、通話エージェントは、次のように定義される追加の I、ES、および RM パラメータで監査エンドポイント (AUEP) コマンドを使用して、エンドポイントを監査することを決定する場合があります。

- I -- エンドポイント上の現在の接続に対する接続識別子のリスト
- ES -- エンドポイントのイベント状態 (オフフックまたはオンフック)
- RM -- 最後の RSIP のリスタートメソッド理由 (順次的、強制、再起動、または切断)

通話エージェントとのエンドポイント同期は、切断された RSIP メッセージの交換とエンドポイント監査によって実現されます。

例

次の例では、SGCP エンドポイントとコールエージェントの間の切断された RSIP メッセージングを有効にします。

```
Router(config)# mgcp sgcp disconnect notify
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcpsgcprestartnotify	MGCP アプリケーションが SGCP タイプの RSIP メッセージを処理できるようにします。
show mgcp	MGCP および SGCP パラメータの情報を表示します。

Mgcp sgcp 再起動通知

Media Gateway Control Protocol (MGCP) アプリケーションをトリガーして Simple Gateway Control Protocol (SGCP) タイプの再起動中 (RSIP) メッセージを処理するには、**mgcpsgcprestartnotify** コマンドをグローバル設定モードで使用します。トリガーをキャンセルするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcpsgcp再起動notify
 いいえmgcpsgcp再起動通知する

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

プロトコルタイプが SGCP として設定されている場合、SGCP は RSIP メッセージを送信しません。

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(3)T	このコマンドが Cisco 3600 シリーズに追加されました。
12.1(5)XM	このコマンドが MGCP 用に変更され、Cisco MC3810 に実装されました。
12.2(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合され、Cisco 7200 シリーズに実装されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。
12.2(13)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(13)T に統合されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、RSIP メッセージをルーターから SGCP Call Agent に送信するために使用されます。RSIP メッセージは、T1 コントローラが起動しているかダウンしているかを示し、Call Agent がルーターと同期できるようにするために使用されます。また、**mgcp** コマンドが入力されると、RSIP メッセージが送信され、これにより MGCP デーモンが有効になります。

例

次の例では、T1 コントローラの状態が変化したときに、システムが RSIP 通知を SGCP call エージェントに送信することを指定しています。

```
Router(config)# mgcp sgcp restart notify
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp	MGCP デーモンを開始します。

mgcp src-cac

VoIP をサポートする Media Gateway Control Protocol (MGCP) ゲートウェイでシステムリソースチェック (SRC) 通話受付管理 (CAC) を有効にするには、**mgcpsrc-cac** コマンドをグローバル設定モードで使用します。ゲートウェイのシステムリソースチェックを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcpsrc-cac

いいえ **mgcpsrc-cac**

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

システムリソース確認が無効になっています。

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(2)XB	このコマンドが導入されました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。
12.2(11)T	このコマンドが次のプラットフォームに導入されました: Cisco AS5350、Cisco AS5400、Cisco AS5850、および Cisco AS5850。

使用上のガイドライン

このコマンドが入力されると、CPU使用率、メモリ使用率、および最大コール数のすべてのシステムリソースチェックが、コールエージェントから受信したすべてのコール設定または変更要求に対して実行されます。

例

次の例では、MGCP VoIP SRC CAC を有効にします。

```
Router(config)# mgcp src-cac
```

関連コマンド

コマンド	説明
callthresholdglobal	SRC CAC パラメータのしきい値を設定します。
mgcp	開始し、MGCP デーモンにリソースを割り当てます。

mgcp timer

ゲートウェイが RTP (Real-Time Transport Protocol) ストリームホストを検出する方法を設定するには、グローバル設定モードで **mgcptimer** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcptimer {**receive-rtcptimer** | **net-cont-testtimer** | **nse-responset38timer** | **toh-timetimer**}

いいえ **mgcptimer** {**receive-rtcp** | **net-cont-test** | **toh-time**}

構文の説明

receive-rtcptimer	RTCP レポート送信間隔の倍数で、単位はミリ秒です。値の範囲は 1 ～ 100 です。デフォルトは 5 です。
net-cont-testtimer	VoIP および VoATM アダプテーション レイヤー 2 (VoAAL2) 呼び出しの連続性テストタイムアウト間隔(ミリ秒単位)。範囲は 100 ～ 3000 です。デフォルトは 200 です。 (注) このキーワードは、以前は rtp-nse と呼ばれていました。
nse-responset38timer	ピアゲートウェイからの T.38 名前付きシグナリングイベント (NSE) 応答を待機するタイムアウト期間はミリ秒単位です。範囲は 100 ～ 3000 です。デフォルトは 200 です。
toh-time タイマー	3 回のビープ音のグループ間の無音状態の長さを指定するため、保留音はミリ秒単位です。範囲は 1 ～ 65500 です。デフォルトは 10 です。

コマンド デフォルト

receive-rtcptimer: 5 ms **net-cont-testtimer**: 200 ms **nse-responset38timer**: 200 ms **toh-timetimer**: 10 ms

コマンド モード

グローバル構成 (config)

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(5)T	このコマンドは、Cisco AS5300 の Simple Gateway Control Protocol (SGCP) に導入されました。
12.0(7)XK	このコマンドが Cisco MC3810 および Cisco 3600 シリーズ (Cisco 3620 を除く) に実装されました。
12.1(5)XM	このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) をサポートするように変更されました。 rtp-nse キーワードは、機能の変更なしに net-cont-test キーワードに変更されました。
12.2(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合され、Cisco 7200 に実装されました。

リリース	変更
12.2(2)XB	このコマンドは変更されました。 nse-responset38 オプションが追加され、MGCP T.38 がサポートされました。
12.2(8)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(8)T に統合されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300、Cisco AS5400、および Cisco AS5850 に実装されました。
12.2(15)T	このコマンドが Cisco 1751 および Cisco 1760 に実装されました。
12.3(10)T	このコマンドは変更されました。 保留音で使用する 3 回のビープ音のグループ間で無音状態の時間を調整する toh-time キーワードが追加されました。

使用上のガイドライン

VoIP コールの RTP Control Protocol (RTCP) 送信間隔、および VoIP および VoATM Adaptation Layer 2 (VoAAL2) コールの連続性テストのタイムアウト間隔を指定するには、このコマンドを使用します。

Receive-rtcp キーワードは、リモートゲートウェイとの IP 接続が失われたときに、VoIP 通話を切断するためにゲートウェイが使用するタイマーです。 リモートゲートウェイから各 RTP または RTCP パケットを受信した後で、受信側のゲートウェイはタイマーを開始します。 タイマーの期間は、**mgcptimerreceive-rtcp** コマンドで設定した値と **iprtcpreportinterval** コマンドで設定した値を掛けることで決定されます。 リモートゲートウェイから次のパケットを受信する前にタイマーが切れた場合、受信側のゲートウェイが通話を切断し、コールエージェントに通知します。

net-cont-test キーワードは、着信側ゲートウェイが呼び出し先に着信音を鳴らす前に、発信側ゲートウェイとのネットワーク接続を確認するために使用されます。 これを行うために、着信側ゲートウェイは発信側ゲートウェイにコマンドパケットを送信し、タイマー期間の計時を開始します。 発信側ゲートウェイからの確認応答を受信する前にタイマーが切れた場合、着信側ゲートウェイは呼び出されたパーティに呼び出し音を鳴らしませんが、代わりに通話を切断し、コールエージェントにアラートを送ります。

nse-responset38 オプションは、T.38 NSE 応答を待つタイマーを設定します。 このタイマーは、ピアゲートウェイからの NSE を待機する時間を終端ゲートウェイに伝えるために設定されます。 ピアゲートウェイからの NSE は、スイッチとパケットを受け入れる準備ができたことを確認するか、T.38 パケットを受け入れることができないことを示すことができます。

toh-time タイマーオプションで、保留音で使用する 3 回のビープ音のグループ間の無音状態の時間を設定します。

例

次の例では、倍率を 10 に設定します (または $x \times 10$ 。 x は **ip rtcpreportinterval** コマンドで設定した間隔です)。

```
Router(config)# mgcp timer receive-rtcp 10
```

次の例では、**net-cont-test** タイマーを 1500 ms (1.5 秒) に設定しています。

```
Router(config)#mgcp timer net-cont-test 1500
```

次の例では、ピア ゲートウェイからの NSE に対して、MGCP ファックス リレーを有効にし、ゲートウェイ待機時間を 300 ms に設定します。

```
Router(config)# mgcp timer nse-response t38 300
```

次の例では、保留音タイマーを有効にし、3 回のビープ音のグループ間の無音状態の継続時間を 200 ms に設定します。

```
Router(config)# mgcp timer toh-time 200
```

関連コマンド

コマンド	説明
iprtcp レポート間隔	RTCP レポート送信の最小間隔を設定します。
mgcp	MGCP デーモンを開始します。
mgcp モデムパススルーモード	ゲートウェイ上でのモデムおよびファックス送信の速度変更方法を設定します。
mgcptsepayload	ファックスおよびモデム コールの TSE ペイロードを設定します。

mgcp tse payload



(注) このコマンドはサポートされていません。これは、**mgcpRTPpayload-type** コマンドに置き換えられました。

インバンドテレフォニー シグナリング イベント (TSE) を有効にし、FAX およびモデムのパススルーおよびネットワーク連続性テスト中に使用されるペイロード値を指定するには、**mgcptseペイロード** コマンドをグローバル コンフィギュレーション モードで起動します。これらのシグナリング イベントを無効にするには、**no**形式で指定します。

mgcptseペイロード値
 いいえ**mgcptseペイロード**

構文の説明

値TSE ペイロード値。範囲は 98 ～ 119 です。デフォルトは 100 です。

コマンド デフォルト

100

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(7)XK	Cisco MC3810とCisco 3600シリーズ（Cisco 3620を除く）のSimple Gateway Control Protocol（SGCP）にこのコマンドが導入されました。
12.1(5)XM	このコマンドは、Media Gateway Control Protocol (MGCP) をサポートするように変更されました。
12.2(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合され、Cisco 7200 シリーズルータに実装されました。
12.2(11)T	このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3620、Cisco AS5300
12.4(3rd)T	このコマンドは、 mgcprtppayload-type コマンドに置き換えられました。

使用上のガイドライン

このコマンドはデフォルトで無効になっているため、TSEペイロード値を指定する必要があります。両方のゲートウェイは同じペイロード値を持つ必要があります。

mgcpmodempassthroughmodeコマンドを次のように設定する場合、**nse** キーワードを使用する場合、このコマンドを設定する必要があります。

例

次の例では、VoIP モデムパススルーに NSE モードを設定し、TSE ペイロードを設定しています。

```
Router(config)# mgcp modem passthrough voip mode nse
Router(config)# mgcp tse payload 100
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp	MGCP デーモンを開始します。
mgcpmodempassthroughmode	ゲートウェイ上でのモデムおよびファックス送信の速度変更方法を設定します。

mgcp vad

Media Gateway Control Protocol (MGCP) の音声アクティビティ検出 (VAD) 無音状態の抑制を有効にするには、グローバル設定モードで **mgcpvad** コマンドを使用します。VAD 無音状態の抑制を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcpvad

いいえmgcpvad

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

Disabled

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(1)T	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(3)T	このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3660、Cisco uBR924
12.1(5)XM	このコマンドが Cisco MC3810 に実装されました。
12.2(2)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(2)T に統合され、Cisco 7200 シリーズに実装されました。
12.2(11)T	このコマンドが Cisco AS5300 および Cisco AS5850 に実装されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用して、VAD 無音状態の抑制をオンまたはオフにするように MGCP ゲートウェイに指示します。

VAD 無音状態の抑制がオンの場合、無音状態はネットワーク上で送信されず、聞き取れる音声のみになります。音質はわずかに低下しますが、接続が占有する帯域幅ははるかに少なくなります。

例

次の例では、VAD 無音状態の抑制をオンにします。

```
Router(config)# mgcp vad
```

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp	MGCP デーモンを開始します。

mgcp validate call-agent source-ipaddr

Media Gateway Control Protocol (MGCP) アプリケーションが、パケットが設定されたコールエージェントから受信されたことを検証できるようにするには、グローバルで、**mgcp validate call-agent source-ipaddr** コマンドを使用します。構成モードを選択します。検証機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcp検証する**call-agent source-ipaddr**

いいえ**mgcp**検証する**call-agent source-ipaddr**

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

検証は行われません。

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.3(11)T	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、着信パケットが MGCP または Cisco CallManager で設定されたコールエージェントからのみ受信されることを確認します。このコマンドが有効な場合、MGCP または Cisco CallManager で設定されていないコールエージェントから受信したメッセージはすべてドロップされます。未設定のコールエージェントからのパケットをフィルタリングするために、アクセスリストの代わりに **mgcp** 検証 コールエージェント ソース IP アドレス コマンドを使用します。**mgcpbind** コントロールソース インターフェイス インターフェイス コマンドを使用して、非セキュア インターフェイス上の未構成のコール エージェント要求に応答することから MGCP アプリケーションを制限します。**ccm-manager config** サーバー サーバー アドレス コマンドを使用して、着信パケットを確認するときに使用される Cisco CallManager アドレスを設定します。

例

次の例は、MGCP call-エージェント検証が有効であることを示します。

```
Router(config)# mgcp validate call-agent source-ipaddr
```

関連コマンド

コマンド	説明
ccm-manager config server	着信パケットの確認で使用する Cisco CallManager アドレスを設定します。
mgcpbind control source-interface	非セキュア インターフェイス上の未構成のコール エージェント要求に応答することから、MGCP アプリケーションを制限します。

コマンド	説明
mgcp call-agent	プライマリまたはデフォルトの Cisco CallManager サーバの IP アドレスを構成し、指定された Cisco CallManager サーバの オプションの宛先 UDP ポート番号を指定します。
show mgcp srtp	アクティブな MGCP SRTP 通話を表示します。

mgcp validate domain-name

ゲートウェイで設定されたものに対して、MGCP メッセージのエンドポイント名の一部として受信したホスト名とドメイン (または特定の IP アドレス) の検証を有効にするには、グローバル設定モードで **mgcpvalidatedomain-name** コマンドを使用します。Media Gateway Control Protocol (MGCP) エンドポイントの検証を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcp検証するドメイン名

いいえ**mgcp**検証するドメイン名

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

ホスト名およびドメイン (または IP アドレス) の検証が無効になっています。

コマンド モード

グローバル構成

コマンド履歴

リリース	変更
12.2(13)T	このコマンドが導入されました。
12.3(17)	このコマンドのデフォルト状態が無効に変更されました。
12.3(11)T8; 12.3(14)T5	このコマンドのデフォルト状態が無効に変更されました。
12.4(1c); 12.4(3b); 12.4(5)	このコマンドのデフォルト状態が無効に変更されました。
12.4(2)T2; 12.4(4)T1; 12.4(6)T	このコマンドのデフォルト状態が無効に変更されました。

使用上のガイドライン

mgcpvalidatedomain-name コマンドは、コールエージェント (CA) またはCisco CallManagerから送信されたエンドポイント名の一部として受け取ったホスト名とドメイン (または特定のIP アドレス) の検証を有効にします。これは、ゲートウェイ上で設定されたものと比較します。ホスト名またはドメイン (または IP アドレス) が有効でない場合、システムは適切なコメントと共に 500 エラーを返します。

VoIP ネットワークでグローバルに MGCP を設定する前に、**mgcpvalidatedomain-name** コマンドを使用します。(グローバルな MGCP 設定情報については、『Cisco Unified CallManager および Cisco IOS 相互運用ガイド』を参照してください。)



(注) CA または Cisco CallManager から受信した MGCP メッセージだけが検証されます。

showrunning-config コマンドを使用して、MGCP ドメイン名の検証の現在の設定を表示することができます。MGCP 情報だけを表示するには、表示出力を MGCP のセクションに制限します (「例」を参照)。



- (注) MGCP ドメイン名検証が無効になっている場合、**showrunning-config** コマンドの出力にはこのコマンドが含まれません。このコマンドはドメイン名の検証が有効になっている場合にのみ表示されます。ただし、この機能のデフォルトが変更される前にリリースされたソフトウェアイメージをシステムで実行している場合、MGCP ドメイン名の検証はデフォルトでオンになり、**showrunning-config** コマンドの出力は検証が無効になっている場合にのみ表示されます。

MGCP のドメイン名の検証機能を有効にしたら、適切なエンドポイント名が着信 MGCP メッセージの一部として含まれていることを確認する必要があります。この検証を実行することで、無効なホスト名、ドメイン名、および IP アドレスを持つ受信メッセージが拒否される一方で、有効な受信メッセージが引き続きターゲットエンドポイント(ホスト)に到達できることを確認するのに役立ちます。この情報を確認せずにこの検証機能を有効にすると、有効な名前やアドレスを使用しているメッセージも含め、すべての受信メッセージが拒否される可能性があります(例を参照)。

例

次の例は、MGCP ドメイン名検証を有効にする方法、検証が実行中の構成で有効になっていることを確認する方法、およびゲートウェイ構成への着信 MGCP メッセージで指定されたホスト名、ドメイン名、または IP アドレスを確認して照合する方法を示しています。

次のコマンドを使用して、MGCP ドメイン名の検証を有効にします。

```
Router(config)# mgcp validate domain-name
```

次のコマンドを使用して、MGCP ドメイン名の検証が有効になっていることを確認します。

```
Router(config)# show running-config | section mgcp
```

または

```
Router(config)# show running-config | include mgcp validate
mgcp validate domain-name
Router(config)#
```

以下のコマンドとプロセスを使用して、ホスト名とドメイン名が構成され、有効な受信メッセージだけがゲートウェイによって受け入れられることを確認します。

ドメイン名の検証を有効にした後、MGCP パケットのデバッグトレースを有効にします。

```
Router# debug mgcp packets
Media Gateway Control Protocol packets debugging for all endpoints is on
Router#
```

CA または Cisco CallManager からゲートウェイへのコールを生成します。その呼び出しはゲートウェイでデバッグメッセージを生成するので、着信 MGCP メッセージに含まれるエンドポイント情報と、ゲートウェイから CA (または Cisco CallManager) への応答を表示できます。

```

Router#
*Mar 14 02:29:11.512: MGCP Packet received from 192.0.2.135:2427--->
RQNT 3 aaln/S2/SU0/0@Router2821.example.com MGCP 0.1
R: L/hd(N)
X:1
<---
*Mar 14 02:29:11.512: MGCP Packet sent to 192.0.2.135:2427--->
500 3 Endpoint name contains an invalid host or domain
<---

```

着信メッセージのホスト名 (aaln/S2/SU0/0@Router2821.example.com) がゲートウェイ (ルーター) のホスト名と一致しないため、メッセージは拒否されました (NACKで返答されました)。これを解決するには、ゲートウェイのホスト名を変更します:

```

Router# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router(config)# hostname Router2821
Router2821(config)# end
Router2821#

```

CA または Cisco CallManager からゲートウェイへの別のコールを生成します。その呼び出しはより多くのデバッグメッセージを生成するので、着信 MGCP メッセージに含まれるエンドポイント情報と、ゲートウェイから CA (または Cisco CallManager) への応答を表示できます。

```

*Mar 14 03:01:12.480: MGCP Packet received from 192.0.2.135:2427--->
RQNT 3 aaln/S2/SU0/0@Router2821.example.com MGCP 0.1
R: L/hd(N)
X:1
<---
*Mar 14 03:01:12.480: MGCP Packet sent to 192.0.2.135:2427--->
200 3 OK
<---

```

検証に成功し、ホスト名が一致したため、CA または Cisco CallManager に ACK (肯定応答) が返信されます。これと同じプロセスがドメイン名の検証にも適用されます。ゲートウェイのドメイン名を設定し、ドメイン名とホスト名の現在の構成を表示するには、次のコマンドを使用します。

```

Router2821# config terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Router2821(config)# ip domain-name example.com
Router2821(config)# end
Router2821# show running-config
Building configuration...
.
.
.
hostname Router2821
.
.
.
ip domain name example.com
.
.
.
Router2821#

```

以下のコマンドとプロセスを使用して、ゲートウェイの IP アドレスが構成され、有効な着信メッセージだけがゲートウェイによって受け入れられるようにすることを確認します。

```
Router2821# show ip interface brief
Interface          IP-Address      OK?    Method    Status    Protocol
GigabitEthernet0/0 192.0.2.189     YES    NVRAM     up        up
Router2821#
```

CA または Cisco CallManager からゲートウェイへのコールを生成します。そのコールはデバッグメッセージを生成するため、着信 MGCP メッセージに含まれるエンドポイント情報と、ゲートウェイから CA (または Cisco CallManager) への応答を表示できます。MGCP メッセージがドメインやホスト名ではなく、特定の IP アドレスに送信されている場合、次のようなデバッグメッセージが表示されます。

```
*Mar 14 03:16:52.356: MGCP Packet received from 192.0.2.135:2427--->
RQNT 3 aaln/S2/SU0/0@[192.0.2.190] MGCP 0.1
R: L/hd(N)
X:1
<---
*Mar 14 03:16:52.356: MGCP Packet sent to 192.0.2.135:2427--->
500 3 Endpoint name contains an invalid host or domain
<---
```

着信メッセージで指定された IP アドレス (aaln/S2/SU0/0@192.0.2.190) が GigE 0/0 インターフェイスの IP アドレス (192.0.2.189 と一致しないため、メッセージは拒否されました (NACK で応答)。この問題を解決するには、このゲートウェイに対して CA または Cisco CallManager で指定されている IP アドレスを変更し、このゲートウェイへの別のコールを生成します。IP アドレスが一致する場合、次のようなデバッグメッセージが表示されます。

```
*Mar 14 03:16:10.360: MGCP Packet received from 192.0.2.135:2427--->
RQNT 3 aaln/S2/SU0/0@[192.0.2.189] MGCP 0.1
R: L/hd(N)
X:1
<---
*Mar 14 03:16:10.364: MGCP Packet sent to 192.0.2.135:2427--->
200 3 OK
<---
```

着信 MGCP メッセージで指定されている IP アドレスはゲートウェイの IP アドレスと一致するため、メッセージは受け入れられ、応答として ACK が返されます。

関連コマンド

コマンド	説明
mgcp call-agent	プライマリまたはデフォルトの Cisco CallManager サーバの IP アドレスを構成し、指定された Cisco CallManager サーバのオプションの宛先 UDP ポート番号を指定します。
show ccm-manager	Cisco CallManager サーバのリストと、それらの現在の状況と可用性を表示します。

mgcp voice-quality-stats

Media Gateway Control Protocol (MGCP) の音声品質の統計レポートを有効にするには、グローバル設定で **mgcp 音声品質統計** コマンドを使用します。音声品質統計レポートをオフにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mgcp voice-quality-stats[優先順位変数 | すべて]

no mgcp voice-quality-stats[優先順位変数 | すべて]

構文の説明	priority <value>	優先順位を示す数値パラメータ 1 または 2 を選択します。
	all	すべての VQ パラメータを選択します。

コマンド デフォルト 音声品質の統計レポートがオフになっています。

コマンド モード グローバル設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.3(3)	このコマンドが導入されました。
	12.4(4)T	優先度キーワードとすべてのキーワードが導入されました。

使用上のガイドライン

- デジタル シグナル プロセッサ (DSP) 統計の要求は、RTP Control Protocol (RTCP) 統計のポーリング間隔によって制御されます。ポーリング間隔は、**iprtcpreportinterval** コマンドを入力して設定できます。既定では、統計は 5 秒ごとにポーリングされます。



(注) Cisco PGW 2200 は、通話詳細記録 (CDR) のデータを収集するために、DSP 統計をサポートするパッチが必要です。

- このコマンドはコンソールに出力しません。コール エージェントに送信される MGCP 接続削除 (DLCX) 確認メッセージに、品質統計パラメータを追加します。

Cisco IOS Release 12.4(4)T は、プライオリティ レベル 1 および 2 のみをサポートします。

- キーワード **優先度** で 1 または 2 の値を使用し、パラメータの優先順位を示します。



(注) 優先順位 2 を選択することは、キーワード **all** を使用してすべてのパラメータを選択することと似ています。

VQ パラメータの対応するセットは、選択された優先順位に基づいて、MGCP DLCX メッセージで送信されます。

例

次の例では、MGCP の音声品質統計レポートを有効にします。

```
Router> enable
Router# configure terminal
Router(config)# mgcp voice-quality-stats
Router(config)# end
```

以下の例は、優先順位 1 に対して選択された VQ パラメータを示しています。

```
mgcp voice-quality-stats priority 1
16:38:20.461771 10.0.5.130:2427 10.0.5.133:2427 MGCP..... -> 250 1133 OK
P: PS=0, OS=0, PR=0, OR=0, PL=0, JI=65, LA=0
DSP/TX: PK=118, SG=0, NS=1, DU=28860, VO=2350
DSP/RX: PK=0, SG=0, CF=0, RX=28860, VO=0, BS=0, LP=0, BP=0
DSP/PD: CU=65, MI=65, MA=65, CO=0, IJ=0
DSP/LE: TP=0, RP=0, TM=0, RM=0, BN=0, ER=0, AC=0
DSP/IN: CI=0, FM=0, FP =0, VS=0, GT=0, GR=0, JD=0, JN=0, JM=0,
DSP/CR: CR=0, MN=0, CT=0, TT=0,
DSP/DC: DC=0,
DSP/CS: CS=0, SC=0, TS=0,
DSP/UC: U1=0, U2=0, T1=0, T2=0
```

次の例は、キーワード **all** に対して選択されたすべての VQ パラメータを示しています:

```
mgcp voice-quality-stats all
16:38:20.461771 10.0.5.130:2427 10.0.5.133:2427 MGCP..... -> 250 1133 OK
P: PS=0, OS=0, PR=0, OR=0, PL=0, JI=65, LA=0
DSP/TX: PK=118, SG=0, NS=1, DU=28860, VO=2350
DSP/RX: PK=0, SG=0, CF=0, RX=28860, VO=0, BS=0, LP=0, BP=0
DSP/PD: CU=65, MI=65, MA=65, CO=0, IJ=0
DSP/PE: PC=0, IC=0, SC=0, RM=0, BO=0, EE=0
DSP/LE: TP=0, RP=0, TM=0, RM=0, BN=0, ER=0, AC=0
DSP/ER: RD=0, TD=0, RC=0, TC=0
DSP/IC: IC=0
DSP/EC: CI=0, FM=0, FP =0, VS=0, GT=0, GR=0, JD=0, JN=0, JM=0, JX=0,
DSP/KF: KF=0, AV=0, MI=0, BS=0, NB=0, FL=0,
DSP/CS: CR=0, AV=0, MN=0, MX=0, CS=0, SC=0, TS=0, DC=0,
DSP/RF: ML=0, MC=0, R1=0, R2=0, IF=0, ID=0, IE=0, BL=0, R0=0,
DSP/UC: U1=0, U2=0, T1=0, T2=0,
DSP/DL: RT=0, ED=0
```

関連コマンド

コマンド	説明
debugmgcp	MGCP エラー、イベント、メディア、パケット、パーサー、および CAC のデバッグ トレースを有効にします。
iprtcpreportinterval	RTCP 統計のポーリング間隔を設定します。

microcode reload controller

Cisco IOS イメージを再ロードせずに、ファームウェアとフィールドプログラミング可能ゲートアレイ (FPGA) を再ロードするには、**microcodereload** コントローラ コマンドを特権 EXEC モードで実行します。

マイクロコード リロード コントローラ {t1 | e1 | j1}x/y

構文の説明

t1	T1
e1	E1
j1	J1 コントローラ。
x/y	コントローラのスロット番号とユニット番号。スラッシュを入力する必要があります。

コマンド デフォルト

マイクロコードの再読み込みアクティビティは開始されません。

コマンド モード

特権 EXEC

コマンド履歴

リリース	変更
12.1(2)XH	このコマンドが Cisco 2600 シリーズおよび Cisco 3600 シリーズに導入されました。
12.1(3)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(3)T に統合されました。
12.2(8)T	j1 キーワードが追加されました。
12.2(33)SRA	このコマンドが Cisco IOS Release 12.2(33)SRA に統合されました。
12.2SX	このコマンドは Cisco IOS Release 12.2SX トレインでサポートされています。このトレインの特定の 12.2SX リリースでのサポートは、機能セット、プラットフォーム、プラットフォーム ハードウェアによって異なります。

使用上のガイドライン

実行コンフィギュレーションのループバックは、このコマンドの入力後に復元されます。このコマンドが発行される前にコントローラがループ状態にあった場合、ループ状態は解除されます。コントローラ設定から **noloop** コマンドを入力して、リモートエンドからループバックを再開する必要があります。

例

次に、マイクロコードのリロードアクティビティを開始する例を示します。

```
Router# microcode reload controller j1 3/0
TDM-connections and network traffic will be briefly disrupted.
Proceed with reload microcode?[confirm]
Router#
```

```
*Mar 3 209.165.200.225: clk_src_link_up_down: Status of this CLK does not matter
*Mar 3 209.165.200.226: clk_src_link_up_down: Status of this CLK does not matter
*Mar 3 209.165.200.227: %CONTROLLER-5-UPDOWN: Controller J1 3/0, changed state to)
*Mar 3 209.165.200.227: clk_src_link_up_down: Status of this CLK does not matter
*Mar 3 209.165.200.228: clk_src_link_up_down: Status of this CLK does not matter
*Mar 3 209.165.200.229: %CONTROLLER-5-UPDOWN: Controller J1 3/0, changed state top
*Mar 3 209.165.200.229: clk_src_link_up_down: Status of this CLK does not matter
*Mar 3 209.165.200.229: clk_src_link_up_down: Status of this CLK does not matter
```

midcall-signaling

シグナリングメッセージに使用される方法を設定するには、SIP 設定モード、音声クラステナント設定モード、またはダイヤルピア設定モードで、**midcall-signaling** コマンドを使用します。通話中のシグナリング機能を無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

midcall-signaling {パススルーメディア変更 | ブロックする | コーデックを保持する} [system]
 いいえ midcall-signaling

構文の説明

passthru-media-change	1 つの IP レッグから別の IP レッグへのメディア変更を含む SIP メッセージを渡します。
block	通話中にすべての SIP メッセージをブロックします。
preserve-codec	通話の初期化中にネゴシエートされるコーデックを保存します。通話中のコーデック変更は無効になっています。
システム	通話中シグナリング機能がグローバル sip-ua 値を使用することを指定します。このキーワードはテナントモードでのみ使用可能で、それがグローバル設定にフォールバックすることを許可します。

コマンド デフォルト

通話中シグナルが無効になっています。通話中のコーデック ネゴシエーションが有効になっています。

コマンド モード

SIP 構成 (conf-serv-sip)

音声クラス テナント構成 (config-class)

コマンド履歴

リリース	変更
12.4(15)XZ	このコマンドが導入されました。
12.4(20)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.4(20)T に統合されました。
Cisco IOS XE リリース 2.5	このコマンドが Cisco IOS XE Release 2.5 に統合されました。
15.2(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 15.2(1)T に統合されました。メディアチェンジおよび ブロック キーワードが追加されました。
15.3(2)S、15.3(1)T	このコマンドは変更されました。コーデックを保持するキーワードが追加されました。
15.6(2)T および IOS XE デナリ 16.3.1	このコマンドにキーワード system が追加されました。

リリース	変更
Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a	Yang モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン

midcall-signaling コマンドは、Cisco Unified Communications Express と Cisco Unified Border Element でシグナリングメッセージを処理する方法を区別します。ほとんどの SIP-to-SIP ビデオおよび SIP-to-SIP 再招待ベースの付加サービスでは、他の付加サービスを設定する前に、**midcall-signaling** コマンドを設定する必要があります。**midcall-signaling** を構成しなくても機能する付加サービス機能には、セッション更新、FAX、参照ベースの付加サービスがあります。**midcall-signaling** コマンドは、SIP-to-SIP コール専用です。その他のすべての通話 (H323 から SIP、および H323 から H323) では、**midcall-signaling** コマンドを設定する必要はありません。**allow-connectionssip-to-sip** コマンドは、**midcall-signaling** コマンドの前に設定する必要があります。

再招待するセッションの更新をダイヤルピア ベースで設定することはサポートされていません。

例

次の例は、1 つの IP レッグから別の IP レッグにパススルーするように設定された SIP メッセージを示しています。

```
Router(config)#voice service voip
Router(conf-voi-serv)# sip
Router(conf-serv-sip)# midcall-signaling passthru
```

次の例は、1つのIPパスから別のIPパスへのメディアパススルーに設定されたSIPメッセージを示しています。

```
Router(config)#voice service voip
Router(conf-voi-serv)# sip
Router(conf-serv-sip)# midcall-signaling passthru media-change
```

次の例は SIP メッセージをブロックする方法を示します。

```
Router(config)#voice service voip
Router(conf-voi-serv)# sip
Router(conf-serv-sip)# midcall-signaling block
```

次の例は、通話の途中でコーデックのネゴシエーションを無効にし、通話の開始時にネゴシエートされたコーデックを保持する方法を示しています。

```
Router(config)#voice service voip
Router(conf-voi-serv)# sip
Router(conf-serv-sip)# midcall-signaling preserve-codec
```

次に、音声クラス テナント コンフィギュレーション モードで、1 つの IP レッグから別の IP レッグにパススルーするように設定された SIP メッセージの例を示します。

```
Router(config-class)# midcall-signaling passthru system
```

関連コマンド

コマンド	説明
allow-connections	Cisco Unified BE の特定のタイプのエンドポイント間の接続を許可します。

min-se (SIP)

Session Initiation Protocol (SIP) セッションタイマーを使用するすべての呼び出しに対して、最小セッション有効期限 (Min-SE) ヘッダー値を変更するには、SIP 構成モードで **min-se** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

分時刻session-expires間隔
いいえ分

構文の説明	時間	秒単位での時間の長さ。 Range: 90–86400 (1 day). デフォルト: 1800。
	session-expires <i>interval</i>	セッションの有効期限の時間間隔を示します。 範囲は 90 ～ 86400 です。 デフォルト: 1800。

コマンド デフォルト 1800 秒 (30 分)

コマンド モード
SIP 構成 (conf-serv-sip)

コマンド履歴	リリース	変更
	12.2(11)T	このコマンドが導入されました。
	12.4(9)T	このコマンドは変更されました。 デフォルトの時間が 90–1800 秒に変更されました。
	IOS リリース XE 2.5	このコマンドが Cisco IOS XE Release 2.5 に統合されました。
	15.1(2)T	このコマンドは変更されました。 session-expires キーワードが追加されました。
	Cisco IOS XE Cupertino 17.7.1a	YANG モデルのサポートを導入しました。

使用上のガイドライン プロキシ、ユーザエージェントクライアント、およびユーザエージェントサーバはすべて、受け入れる最小のセッション間隔を示す構成された最小値を持つことができます。すべてに異なる最小値が設定されている場合、最も高い最小値が使用されます。このコマンドは、最初の INVITE 要求の Min-SE ヘッダーで送信される最小タイマーを設定します。

このコマンドの推奨値は 1800 秒 (30 分) です。これは既定値です。値を 90 秒未満に設定することはできません。INVITE が多すぎるとルーターで問題が発生するためです。いったん設定されると、この値はルーターから発信されるすべてのコールに影響を与えます。

セッション期限切れ間隔が設定されておらず、min-se 値のみが設定されている場合、セッション期限切れ間隔は、min-se に設定された値を使用します。

例

次の例では、有効期限タイマーを 90 秒に設定しています。

```
Router(config)# voice service voip
Router(conf-voi-serv)# sip
Router(conf-serv-sip)# min-se 90 session-expires 1800
```

関連コマンド

コマンド	説明
showsip-uamin-se	Min-SEヘッダーの現在の値を表示します。

mmoip aaa global-password

FAX の保存と転送を使用する際に、CiscoSecure for Microsoft Windows NT で使用するパスワードを定義するには、**mmoipaaa global -password** コマンドをグローバル設定モードで使用できます。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mmoipaaa global -password パスワード

いいえ **mmoipaaa** グローバルパスワード パスワード

構文の説明

パスワード	ストアアンドフォワードファックスで使用する CiscoSecure for Windows NT のパスワードです。長さは英数字で 64 文字までです。
-------	--

コマンド デフォルト

パスワードが定義されていません

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(4)XJ	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。

使用上のガイドライン

CiscoSecure for Windows NT は、使用するセキュリティプロトコルに関係なく、認証を完了するために別のパスワードを要求する場合があります。このコマンドは、Cisco Secure for Windows NT で使用されるパスワードを指定します。Microsoft Windows NT サーバ上のすべてのレコードは、この定義されたパスワードを使用します。

このコマンドは、モデムカードを使用している場合に、オンランプストアアンドフォワードファクス機能に適用されます。音声機能カードでは使用されません。

例

次の例では、Cisco Secure for Microsoft Windows NT とストアアンドフォワードファクスを使用する際のパスワード (password) を指定しています:

```
mmoip aaa global-password password
```

mmoip aaa method fax accounting

ファックスの蓄積転送で、認証、認可、および会計 (AAA) 会計に使用する方式リストの名前を定義するには、次のコマンドを使用します。 **mmoipAAA方式faxaccounting** グローバル設定モードでコマンドを使用します。未定義の状態に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mmoipaaaメソッドファクスaccountingメソッドリスト名

いいえ**mmoipaaaメソッドファクスaccountingメソッドリスト名**

構文の説明	<i>method-list-name</i>	ファックスの蓄積転送で使用されるアカウントリング方法のリスト。
コマンド デフォルト	AAA アカウンティング方法リストが定義されていません。	
コマンド モード	グローバル設定	
コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(4)XJ	このコマンドが導入されました。
	12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に実装されました。
	12.2(8)T	このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745。

使用上のガイドライン このコマンドは、FAX のストアアンドフォワードで使用される AAA 会計方式リストの名前を定義します。蓄積転送 FAX に提供される課金サービスのタイプを定義するメソッドリスト自体は、グローバル設定モードで **AAA課金** コマンドを使用して定義します。標準の AAA (各定義済みの方式リストが特定のインターフェイスおよび回線に適用できる) とは異なり、ファックスの蓄積転送で使用される AAA 会計方式リストはグローバルに適用されます。

アカウントリング方法リストが定義されたら、**mmoipAAA受け取り課金有効化** コマンドを使用してください。

このコマンドは、モデムカードが使用されている場合、オンランプおよびオフランプの保存と転送の両方のファックス機能に適用されます。音声機能カードでは使用されません。

例

次に、ファックスの蓄積転送で使用する AAA 会計方式リスト (「list3」) を指定する例を示します。

```
aaa new-model
mmoip aaa method fax accounting list3
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaaaccounting	RADIUS または TACACS+ が使用される場合、請求またはセキュリティの目的で、要求されたサービスの AAA 会計を有効にします。
mmoipaaareceive-accountingenable	AAA 会計サービスのオンランプストアアンドフォワード FAX を有効にします。

mmoip aaa method fax authentication

ストアアンドフォワードファックスのAAA (認証、承認、およびアカウントティング) 認証に使用する方法リストの名前を定義するには、**mmoipAAAメソッドfax認証** コマンドをグローバルコンフィギュレーションモードで使します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使します。

mmoipaaaメソッドファクス認証メソッドリスト名
いいえmmoipaaaメソッドファクス認証メソッドリスト名

構文の説明	<i>method-list-name</i>	ファックスの蓄積転送で使される認証方法のリスト。
コマンド デフォルト	AAA 認証方式リストが定義されていません	
コマンド モード	グローバル設定	
コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(4)XJ	このコマンドが Cisco AS5300 に導入されました。
	12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、ファックスの蓄積転送で使される AAA 認証メソッドリストの名前を定義します。蓄積転送FAXに提供される認証サービスのタイプを定義するメソッドリスト自体は、グローバル設定コマンドで **AAAauthentication** を使して定義します。標準のAAA (定義された各メソッドリストが特定のインターフェイスと回線に適用される) とは異なり、ファックスの蓄積と転送で使される AAA 認証メソッドリストは、Cisco AS5300 ユニバーサルアクセスサーバでグローバルに適用されます。

認証方法リストが定義されたら、**mmoipAAAreceiveauthentication有効化** コマンドを使してください。

このコマンドは、オンランプおよびオフランプストアアンドフォワードファックス機能の両方に適用されます。

例

次の例では、FAXの蓄積転送で使用するAAA認証メソッドリスト (xyz と呼ばれます) を指定しています。

```
aaa new-model
mmoip aaa method fax authentication xyz
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaaaccounting	RADIUS または TACACS+ を使用する場合、請求またはセキュリティの目的で、要求されたサービスの AAA 会計を有効にします。
mmoipaaareceive-authenticationenable	オンランプストア アンド フォワード FAX AAA 認証サービスを有効にします。

mmoip aaa receive-accounting enable

オフランプ認証、承認、および会計 (AAA) サービスを有効にするには、グローバル設定モードで **mmoipaaareceive-accountingenable** コマンドを使用します。 オンランプ AAA サービスを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mmoipaaareceive-accounting有効にする
いいえmmoipaaareceive-accounting有効にする

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

Disabled

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(4)XJ	このコマンドが導入されました。
12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に導入されました。

使用上のガイドライン

課金方法リストが **aaaaccounting** コマンドと **mmoipaaamethodfaxaccounting** コマンドを使用して定義されている場合、このコマンドはAAAサービスを有効にします。

このコマンドは、オンランプストアアンドフォワードファックス機能に適用されます。

例

次の例では、インバウンドのストアアンドフォワードFAXで使用されるAAA方式リストxyzを指定しています。この例では、ストアアンドフォワードファックスは接続の開始および停止のアカウント記録をトラッキングするように設定されています。

```
aaa new-model
mmoip aaa method fax accounting xyz
aaa accounting connection sherman stop-only radius
mmoip aaa receive-accounting enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaaaccounting	RADIUS または TACACS+ を使用する場合、請求またはセキュリティの目的で、要求されたサービスの AAA 会計を有効にします。

コマンド	説明
mmoipaaaamethodfaxaccounting	ファックスの蓄積転送による AAA 会計に使用される方式リストの名前を定義します。

Mmoip AAA 受信認証の有効化

オフランプ認証、承認、および会計 (AAA) サービスを有効にするには、グローバル設定モードで **mmoipaaaareceive-authenticationenable** コマンドを使用します。オンランプ AAA サービスを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mmoipaaaareceive-authenticationenable
 言い換え **mmoipaaaareceive-authentication** 有効にする

構文の説明 このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト Disabled

コマンド モード グローバル設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(4)XJ	このコマンドが導入されました。
	12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に導入されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、**aaaauthentication** command and the **mmoipaaaamethodfaxauthentication** コマンドの両方を使用して AAA 方式リストが定義されている場合に AAA サービスを有効にします。

このコマンドは、オンランプストアアンドフォワードファックス機能に適用されます。

例 次の例では、インバウンドのストアアンドフォワード FAX で使用される AAA 方式リスト xyz を指定しています。この例では、蓄積転送 FAX 用に RADIUS 認証 (および RADIUS サーバに障害が発生した場合はローカル認証) が構成されています。

```
aaa new-model
mmoip aaa method fax authentication xyz
aaa authentication login peabody radius local
mmoip aaa receive-authentication enable
```

関連コマンド	コマンド	説明
	AAA 認証	RADIUS または TACACS+ を使用する場合、請求またはセキュリティの目的で、要求されたサービスの AAA を有効にします。

コマンド	説明
mmoipAAAメソッドファックス認証	ファックスの保存と転送による AAA 認証に使用される方式リストの名前を定義します。

mmoip aaa receive-id primary

AAA プロトコルがオフランプ FAX のアカウント識別情報を取得するプライマリロケーションを指定するには、**mmoipaaareceive-idprimary** コマンドをグローバル設定モードで 사용합니다。アカウント ID ソースの定義を削除するには、このコマンドの **no** 形式を 사용합니다。

mmoipAAAreceive-id プライマリ {**ani** | **dnis** | **gateway** | **redialer-id** | **redialer-dnis**}

いいえ **mmoipAAA受信 ID** プライマリ {**ani** | **dnis** | **gateway** | **redialer-id** | **redialer-dnis**}

構文の説明

ani	AAA は、発信側の電話番号 (自動番号識別 [ANI]) を AAA アカウント識別子として 사용합니다。
dnis	認証、承認、および会計は、着信側の電話番号 (ダイヤル番号識別サービス [DNIS]) を認証、承認、および会計のアカウント識別子として 사용합니다。
ゲートウェイ	認証、承認、および会計は、ホスト名とドメイン名から得られたルーター固有の名前を認証、承認、および会計のアカウント識別子として 사용합니다。 <i>router-name.domain-name</i> の形式で表示します。
redialer-id	AAA は、外部リダイヤルデバイスから AAA アカウント識別子として返されたアカウント文字列を 사용합니다。この場合、リダイヤル ID はリダイヤルシリアル番号またはリダイヤルアカウント番号になります。
redialer-dnis	AAA は、リダイヤラーデバイスが存在する場合に、リダイヤラーにより取得される AAA アカウント識別子として、着信側の電話番号 (Diald NumberIdentification Service [DNIS]) を 사용합니다。

コマンド デフォルト

アカウント ID ソースが定義されていません

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(4)XJ	このコマンドが導入されました。
12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に実装されました。
12.2(8)T	このコマンドが次のプラットフォームに実装されました: Cisco 1751、Cisco 2600 シリーズ、Cisco 3600 シリーズ、Cisco 3725、および Cisco 3745

使用上のガイドライン

通常、簡易ユーザ認証に AAA が使用されている場合、AAA は認証のユーザプロファイルで定義されたユーザ名情報を使用します。ファックスの蓄積転送では、認証でユーザを識別するた

めに使用される ANI、DNIS、ゲートウェイ ID、リダイヤル ID、またはリダイヤル DNIS を指定できます。このコマンドは、ストアアンドフォワード FAX によるインバウンドまたはオンランプのユーザ認証で AAA がプライマリ識別子に使用するものを定義します。

蓄積転送 FAX では、プライマリまたはセカンダリ識別子のいずれかを定義することができます。セカンダリ識別子を設定するには、**mmoipaaaareceive-idsecondary** コマンドを使用します。

AAA はこれらの方法を順番に使用するわけではありません。プライマリ識別子が定義されているが、AAA がプライマリ識別子情報を認証できない場合、認証にセカンダリ識別子を使用しません。認証は単純に失敗します。

セカンダリ識別子のみを定義することで、2つの異なるシナリオに同時にサービスを提供できます。たとえば、2つの異なる会社には FAX サービスを提供し、一方がリダイラーを使用し、もう一方が使用しない場合などです。この場合、**mmoipaaaareceive-IDprimary** コマンドをリダイヤル DNIS を使用し、**mmoipaaaareceive-IDsecondary** コマンドで ANI を使用します。この設定により、ユーザがダイヤルインし、リダイヤルの DNIS が空でない場合、リダイヤルの DNIS が認証識別子として使用されます。ユーザがダイヤルインし、リダイラーの DNIS が null の場合、ANI が認証識別子として使用されます。

このコマンドは、オンランプ ストアアンドフォワード ファックス機能に適用されます。

例

次の例では、ストアアンドフォワード ファックスのプライマリ AAA 認証識別子として、リダイヤルによって取得された DNIS を定義しています。

```
aaa new-model
mmoip aaa receive-id primary redialer-dnis
```

関連コマンド

コマンド	説明
mmoipaaaareceive-idsecondary	プライマリ識別子が定義されていない場合に、オンランプファックス用に AAA がアカウント識別情報を取得するセカンダリ ロケーションを指定します。

mmoip aaa receive-id secondary

プライマリ識別子が定義されていない場合に、認証、認可、およびアカウントティング (AAA) プロトコルがオンランプファックス用のアカウント識別情報を取得するセカンダリの場所を指定するには、**mmoipaaareceive-idsecondary** コマンドをグローバル設定モードで使用できます。アカウント ID ソースの定義を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mmoipaaa受信 IDセカンダリ {ani | dnis | gateway | redialer-id | redialer-dnis}
いいえmmoipaaareceive-idsecondary {ani | dnis | gateway | redialer-id | redialer-dnis}

構文の説明

ani	AAA は、発信側の電話番号 (自動番号識別または ANI) を AAA アカウント識別子として使用します。
dnis	AAA は、着信側の電話番号 (ダイヤル番号識別サービスまたは DNIS) を AAA アカウント識別子として使用します。
ゲートウェイ	AAA は、ホスト名とドメイン名から得られたルーター固有の名前を AAA アカウント識別子として使用します。ルーター名.ドメイン名 の形式で表示されます。
redialer-id	AAA は、外部リダイヤルデバイスから AAA アカウント識別子として返されたアカウント文字列を使用します。この場合、リダイヤル ID はリダイヤルシリアル番号またはリダイヤルアカウント番号になります。
リダイヤル -dnis	AAA は、リダイヤラーデバイスが存在する場合に、リダイヤラーにより取得される AAA アカウント識別子として、着信側の電話番号 (Dialed Number Identification Service [DNIS]) を使用します。

コマンド デフォルト

アカウント ID ソースが定義されていません

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(4)XJ	このコマンドが導入されました。
12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に導入されました。

使用上のガイドライン

通常、簡易ユーザ認証に AAA が使用されている場合、AAA は認証のユーザプロファイルで定義されたユーザ名情報を使用します。ファックスのストアアンドフォワードでは、認証でユーザを識別するために使用される ANI、DNIS、ゲートウェイ ID、リダイヤル DNIS、またはリダ

イダル ID を指定できます。このコマンドは、プライマリ識別子が定義されていない場合に、蓄積転送 FAX によるインバウンドまたはオンランプ ユーザ認証で AAA がセカンダリ識別子に使用するものを定義します。

蓄積転送 FAX では、プライマリまたはセカンダリ識別子のいずれかを定義することができます。プライマリ識別子を設定するには、**mmoipaaaareceive-idprimary** コマンドを使用します。

AAA はこれらの方法を順番に使用しません。つまり、プライマリ識別子が定義されていて、AAA がプライマリ識別子情報を一致できない場合、認証にセカンダリ識別子を使用しません。認証は単純に失敗します。

セカンダリ識別子のみを定義することで、2 つの異なるシナリオに同時にサービスを提供できます。たとえば、2 つの異なる会社 FAX サービスを提供し、一方がリダイヤラーを使用し、もう一方が使用しない場合などです。この場合、**mmoipaaaareceive-idprimary** コマンドをリダイヤル DNIS を使用し、**mmoipaaaareceive-idsecondary** コマンドで ANI を使用します。この設定により、ユーザがダイヤルインし、リダイヤラーの DNIS が空でない場合、リダイヤラーの DNIS が認証識別子として使用されます。ユーザがダイヤルインし、リダイヤラーの DNIS が null の場合、ANI が認証識別子として使用されます。

このコマンドは、オンランプ ストアアンドフォワード ファックス機能に適用されます。

例

次の例では、リダイヤルによりキャプチャされた DNIS を、ファックスの蓄積転送のセカンダリ AAA 認証識別子として定義しています。

```
aaa new-model
mmoip aaa receive-id secondary redialer-dnis
```

関連コマンド

コマンド	説明
mmoipaaaareceive-idprimary	AAA がオンランプ ファックス用のアカウント識別情報を取得するプライマリ ロケーションを指定します。

mmoip aaa send-accounting enable

オフランプ認証、承認、および会計 (AAA) サービスを有効にするには、グローバル設定モードで **mmoipaaaareceive-accountingenable** コマンドを使用します。既定の設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mmoipAAAsend-accounting有効にする
いいえmmoipaaasend-accounting有効にする

構文の説明

このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト

Disabled

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(4)XJ	このコマンドが導入されました。
12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に実装されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、**aaaaccounting** command and the **mmoipaaaamethodfaxaccounting** コマンドの両方を使用してAAA方式リストが定義されている場合にAAAサービスを有効にします。

このコマンドは、モデムカード使用時のオフランプストアアンドフォワードファックス機能に適用されます。音声機能カードでは使用されません。

例

次の例では、ストアアンドフォワードの発信ファックスで使用される AAA 方式リスト (xyz と呼ばれます) を指定しています。この例では、ストアアンドフォワードファックスは接続の開始および停止のアカウント記録をトラッキングするように設定されています。

```
aaa new-model
mmoip aaa method fax accounting xyz
aaa accounting connection sherman stop-only radius
mmoip aaa send-accounting enable
```

関連コマンド

コマンド	説明
aaaaccounting	RADIUS または TACACS+ を使用する場合、請求またはセキュリティの目的で、要求されたサービスの AAA 会計を有効にします。

コマンド	説明
mmoipaaaamethodfaxaccounting	ファックスの蓄積転送による AAA 認証に使用される方式リストの名前を定義します。

Mmoip AAA 送信認証を有効にする

オフランプ認証、承認、および会計 (AAA) サービスを有効にするには、グローバル設定モードで **mmoipaaaasend-authenticationenable** コマンドを使用します。オフランプ AAA サービスを無効にするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

mmoipaaaasend-authenticationenable
 いいえ **mmoipaaaasend-authenticationenable**

構文の説明 このコマンドには引数もキーワード也没有ありません。

コマンド デフォルト Disabled

コマンド モード グローバル設定

コマンド履歴	リリース	変更
	12.0(4)XJ	このコマンドが導入されました。
	12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。
	12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に実装されました。

使用上のガイドライン このコマンドは、**aaaauthentication** command and the **mmoipaaaamethodfaxauthentication** コマンドの両方を使用してAAA方式リストが定義されている場合にAAAサービスを有効にします。

このコマンドは、オフランプストアアンドフォワードファックス機能に適用されます。

例

次の例では、ストアアンドフォワードの発信ファックスで使用される AAA 方式リスト (xyz と呼ばれます) を指定しています。この例では、蓄積転送 FAX 用に RADIUS 認証 (および RADIUS サーバに障害が発生した場合はローカル認証) が構成されています。

```
aaa new-model
mmoip aaa method fax authentication xyz
aaa authentication login peabody radius local
mmoip aaa send-authentication enable
```

関連コマンド	コマンド	説明
	AAA認証	RADIUS または TACACS+ を使用する場合、請求またはセキュリティの目的で、要求されたサービスの AAA 会計を有効にします。

コマンド	説明
mmoipaaaamethodfaxauthentication	ファックスの保存と転送による AAA 認証に使用される方式リストの名前を定義します。

mmoip aaa send-id primary

AAA プロトコルがオフランプ FAX のアカウント識別情報を取得するプライマリロケーションを指定するには、**mmoipAAA send-id primary** コマンドをグローバル設定モードで使します。アカウント ID ソースの定義を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使します。

mmoipaaa send-id プライマリ {**account-id** | **envelope-from** | **envelope-to** | **gateway**}

いいえ **mmoipAAA send-id** プライマリ {**account-id** | **envelope-from** | **envelope-to** | **gateway**}

構文の説明

account-id	AAA は、発信ファックス メール システムからのアカウント ユーザ名を AAA アカウント識別子として使します。これは、オフランプゲートウェイが電子メールヘッダーの X アカウント ID フィールドでアカウント識別子を使することを意味します。この属性を使すると、エンドツーエンドの認証と課金のトラッキングが可能になります。
envelope-from	AAA は、FAX メールのヘッダーからのアカウント ユーザ名を AAA アカウント識別子として使します。
envelope-to	AAA は、FAX メールのヘッダーから取得した受信者を AAA アカウント識別子として使します。
ゲートウェイ	AAA は、ホスト名とドメイン名から得られたルーター固有の名前を AAA アカウント識別子として使します。ルーター名.ドメイン名 の形式で表示されます。

コマンド デフォルト

アカウント ID ソースが定義されていません

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(4)XJ	このコマンドが導入されました。
12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に実装されました。

使用上のガイドライン

通常、簡易ユーザ認証に AAA が使されている場合、AAA は認証のユーザプロファイルで定義されたユーザ名情報を使します。FAX のストアアンドフォワードでは、電子メールのヘッダー情報からのアカウント ID、ユーザ名、または受取人名を、認証でユーザを識別するために使するように指定することができます。このコマンドは、ストアアンドフォワード FAX による発信またはオフランプユーザ認証のプライマリ識別子として AAA が使するものを定義します。

ストアアンドフォワード FAX では、プライマリまたはセカンダリ識別子のいずれかを定義することができます。セカンダリ識別子を設定するには、**mmoipaaasend-idsecondary** コマンドを使用します。AAA は、定義されたソースから認証識別子情報を抽出します。フィールドが空白の場合 (未定義を意味する)、AAA はセカンダリ識別子ソース (設定されている場合) を使用します。セカンダリ識別子は、プライマリ識別子が **null** の場合にのみ使用されます。この場合、AAA はプライマリ識別子が **null** であることを確認すると、セカンダリ識別子が定義されているかどうかを確認し、その値をユーザ認証に使用します。

AAA はこれらの方法を順番に使用しません。つまり、プライマリ識別子が定義されていて、AAA がプライマリ識別子情報を認証できない場合、認証にセカンダリ識別子を使用しません。認証は単純に失敗します。

認証を有効にすると、オンランプ ゲートウェイはあなたが設定した任意の値を **mmoipAAAreceive-idprimary** コマンドをメールヘッダーの X アカウント ID フィールドに挿入します。この X アカウント ID フィールドには、オンランプ ゲートウェイによる認証および課金に使用される値が含まれます。例えば、**mmoipAAAreceive-IDprimary** コマンドが **gateway** に設定されている場合、オンランプゲートウェイ名 (例えば、hostname.domain-name) が FAX メールメッセージのメールヘッダーの X アカウント ID フィールドに挿入されます。

この設定済みのゲートウェイ値を X アカウント ID フィールドで使用する場合、あなたは **mmoipAAAsend-idprimary** コマンドを **account-id** キーワードとともに設定する必要があります。この特定のキーワードにより、ストアアンドフォワード FAX でエンドツーエンドの認証および会計トラッキングレコードを生成できるようになります。オンランプゲートウェイで認証を有効にしない場合、X アカウント ID フィールドは空のままになります。

このコマンドは、オフランプストアアンドフォワードファックス機能に適用されます。

例

次の例では、ファックスのストアアンドフォワードの AAA 認証識別子として使用される電子メールヘッダーの **envelope-to** フィールドで定義されている受信者名を指定しています。

```
aaa new-model
mmoip aaa send-id primary envelope-to
```

関連コマンド

コマンド	説明
mmoipaaareceive-idprimary	オフランプ ファックス用に AAA がアカウント識別情報を取得するプライマリ ロケーションを指定します。
mmoipaaasend-idsecondary	オフランプ ファックス用に AAA がアカウント識別情報を取得するセカンダリ ロケーションを指定します。

mmoip aaa send-id secondary

AAA プロトコルがオフランプ FAX のアカウント識別情報を取得するセカンダリロケーションを指定するには、**mmoipAAA send-idsecondary** コマンドをグローバル設定モードで使します。アカウント ID ソースの定義を削除するには、この **no** 形式のコマンドを使します。

mmoipaaasend-idセカンダリ {account-id | envelope-from | envelope-to | gateway}

いいえ**mmoipaaa**送信 IDsecondary {account-id | envelope-from | envelope-to | gateway}

構文の説明

account-id	AAA は、発信ファックス メール システムからのアカウント ユーザ名を AAA アカウント識別子として使します。これは、オフランプゲートウェイが電子メールヘッダーの X アカウント ID フィールドでアカウント識別子を使することを意味します。この属性を使すると、エンドツーエンドの認証と課金のトラッキングが可能になります。
envelope-from	AAA は、FAX メールのヘッダーからのアカウント ユーザ名を AAA アカウント識別子として使します。
envelope-to	AAA は、FAX メールのヘッダーから取得した受信者を AAA アカウント識別子として使します。
ゲートウェイ	AAA は、ホスト名とドメイン名から得られたルーター固有の名前を AAA アカウント識別子として使します。ルーター名.ドメイン名 の形式で表示されます。

コマンド デフォルト

アカウント ID ソースが定義されていません

コマンド モード

グローバル設定

コマンド履歴

リリース	変更
12.0(4)XJ	このコマンドが導入されました。
12.1(1)T	このコマンドが Cisco IOS Release 12.1(1)T に統合されました。
12.2(4)T	このコマンドが Cisco 1750 に実装されました。

使用上のガイドライン

通常、簡易ユーザ認証に AAA が使されている場合、AAA は認証のユーザプロファイルで定義されたユーザ名情報を使します。FAX のストアアンドフォワードでは、電子メールのヘッダー情報からのアカウント ID、ユーザ名、または受取人名を、認証でユーザを識別するために使するように指定することができます。このコマンドは、ストアアンドフォワード FAX による発信またはオフランプユーザ認証のセカンダリ識別子として AAA が使するものを定義します。

ストアアンドフォワード FAX では、プライマリまたはセカンダリ識別子のいずれかを定義することができます。プライマリ識別子を設定するには、**mmoipaaasend-idprimary** コマンドを使用します。AAA は、定義されたソースから認証識別子情報を抽出します。フィールドが空白の場合 (未定義を意味する)、AAA はセカンダリ識別子ソース (設定されている場合) を使用します。セカンダリ識別子は、プライマリ識別子が **null** の場合にのみ使用されます。この場合、AAA はプライマリ識別子が **null** であることを確認すると、セカンダリ識別子が定義されているかどうかを確認し、その値をユーザ認証に使用します。

AAA はこれらの方法を順番に使用しません。つまり、プライマリ識別子が定義されていて、AAA がプライマリ識別子情報を一致できない場合、認証にセカンダリ識別子を使用しません。認証は単純に失敗します。

認証を有効にすると、オンランプ ゲートウェイは、**mmoipaaa 受信-idセカンダリ** コマンドをメールヘッダーの X アカウント ID フィールドに追加します (ストアアンドフォワード FAX が定義されたセカンダリ識別子を使用する場合)。この X アカウント ID フィールドには、オンランプ ゲートウェイによる認証および課金に使用される値が含まれます。例えば、**mmoipAAAreceive-IDsecondary** コマンドが **gateway** に設定されている場合、オンランプゲートウェイ名 (例えば、hostname.domain-name) が FAX メールメッセージのメールヘッダーの X アカウント ID フィールドに挿入されます。

この設定済みのゲートウェイ値を X アカウント ID フィールドで使用する場合、あなたは **mmoipAAAsend-idsecondary** コマンドを **account-id** キーワードとともに設定する必要があります。この特定のキーワードにより、ストアアンドフォワード FAX でエンドツーエンドの認証および会計トラッキング レコードを生成できるようになります。オンランプゲートウェイで認証を有効にしない場合、X アカウント ID フィールドは空のままになります。

このコマンドは、オフランプストアアンドフォワードファックス機能に適用されます。

例

次の例では、ファックスのストアアンドフォワードの AAA 認証識別子として使用される電子メールヘッダーの **envelope-to** フィールドで定義されている受信者名を指定しています。

```
aaa new-model
mmoip aaa send-id secondary envelope-to
```

関連コマンド

コマンド	説明
mmoipaaareceive-idsecondary	オフランプ ファックス用に AAA がアカウント識別情報を取得するセカンダリ ロケーションを指定します。
mmoipaaasend-idprimary	オフランプ ファックス用に AAA がアカウント識別情報を取得するプライマリ ロケーションを指定します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。